

出穂は平年並～やや早まる見込み！高温時の水管理は「飽水管理」や「間断かん水」で根の活力維持を図りましょう。

**斑点米カメムシ類多い！斑点米カメムシ類防除を徹底しましょう。
今後の水管理の重要ポイント！**

○出穂までは間断かん水（2日湛水・2日落水）を維持し、根の活力を維持する。穂揃期頃は最も水分を必要とする時期のため、湛水状態を保ち（花水）、水を切らさない。

○**花水を除き、水のためっぱなしは厳禁。**

（土壌の還元が進み、根へのダメージ大）

○**高温時は、「飽水管理」や「間断かん水」**で水田の水温と地温を下げるような水管理で根の活力を維持する。

※**高温年の水管理のイメージについては、裏面をチェック！**

斑点米カメムシ類の発生：多い！

○高温年は登熟後半の発生量の増加に注意が必要です。

○斑点米カメムシ類の基本防除は、「**穂揃期**」と「**穂揃期の7～10日後**」の**2回**です。適期防除を実践しましょう。

○基本防除後に水田内のすくい取り調査を行い、発生が確認された場合には、「**2回目防除の7～10日後**」の追加防除を行いましょう。

いもち病は早期発見！早期防除！

○**葉いもちが発生したほ場では、治療効果のある薬剤（ブラシン剤、トライ剤、カスミン剤等）で防除**を行いましょう。

※特別栽培の場合、使用できる農薬が生産計画で決まっているため、確認が必要です。

○**穂いもちの基本防除は「穂孕後期」と「穂揃期」の2回**です。葉いもちの発生が多いほ場では、「**穂揃期の7日後**」にも防除を実施しましょう。

○紋枯病は、穂孕後期と出穂期の2回、発病調査を行い、防除の要否を判断しましょう。

○昨年、**稲こうじ病の発生が見られたほ場では、出穂 20～10 日前に薬剤防除**を行いましょう。



アヒゲホトリカスミカメ

アカスジカスミカメ



葉いもちの病斑

！農作業事故・熱中症に注意！

！山形県農薬危害防止運動実施中！

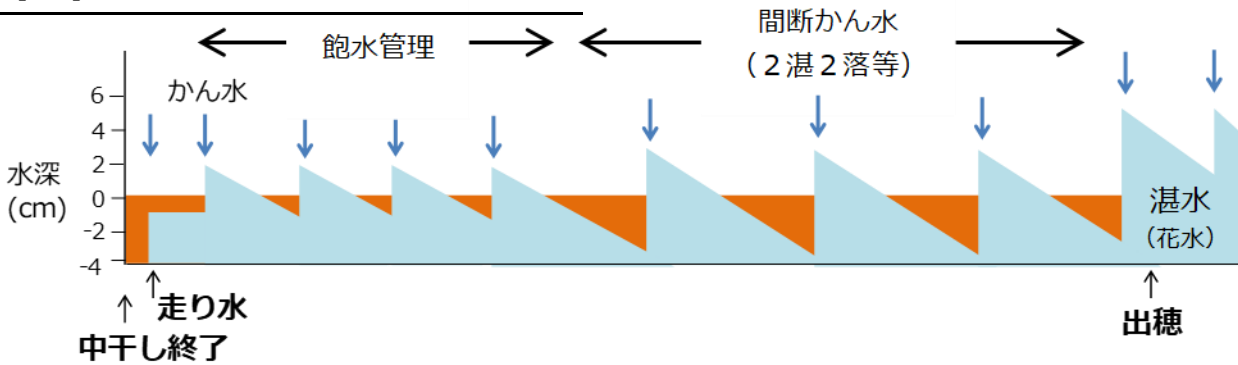
使い慣れている農薬でも、使用前にその都度必ずラベルを確認し、希釈倍数等の使用基準や使用上の注意事項を遵守しましょう。



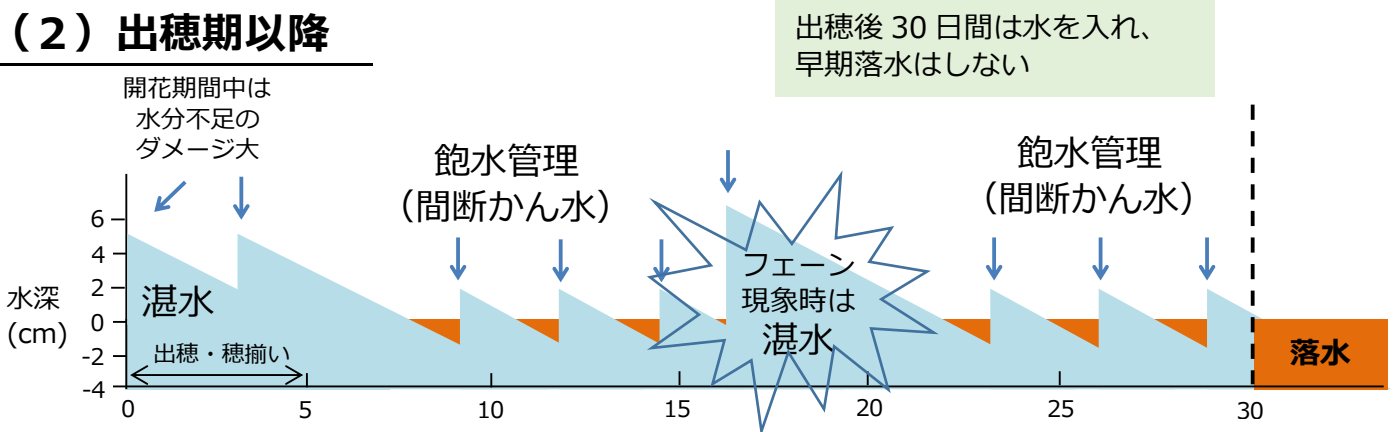
高温年の水管理のイメージ

水のためっぱなしはダメ！

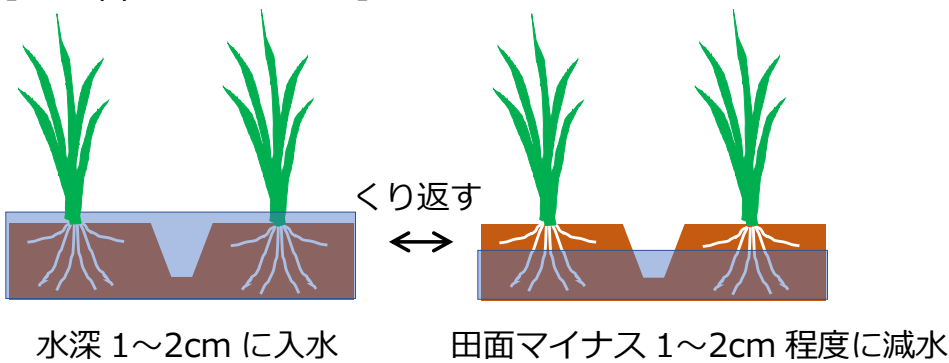
(1) 中干し終了～出穂まで



(2) 出穂期以降



【飽水管理のイメージ】



- 「飽水管理」とは、地表（田面）に水は無いが、くぼみには溜まっていて、土壌が常に湿潤状態に保たれている状態です。
- 湛水管理と比べて、夜間の地温が 0.5℃程度低くなります。
- 土壌を酸化的に保つことができ、根の活力が維持されます。